

## 第 57 次教育研究全国集会参加のみなさんへ

困難な情勢の中、第 57 次全国教研に参加されたみなさんに、日教組史上初めての全体集会中止に至ったことをお詫びします。

開催直前まで私たちは、東京地裁・東京高裁の判決でも認められたグランドプリンスホテル新高輪「飛天」の使用を求めてきました。しかしホテル側は最後まで会場使用を拒否し、司法の判断にも従わず企業としての最低のモラルをも投げ捨てました。

今後ホテル側への損害賠償責任やホテル業としての適格性などの追及は言うに及ばず、この国のありようを問いただし、日本国憲法第 21 条の「集会・結社・表現の自由」を蹂躪するものへ、司法・行政・立法は断固たる態度を示すよう迫らなければなりません。およそ「先進国」に値しないこうした実態を国際世論に訴えます。そして差別と暴力からの解放へ向けて、政治を糺し社会を変革する大きな力にしていきます。

私たち日教組は何よりも子どもたちの幸せを願い、保護者・地域から信頼される教育と差別のない平和な社会を求めて教育研究活動にとりくんできました。そういう私たちのとりくみが、いつまで右翼集団の大音響によって恫喝され、妨害されなければならないのでしょうか。塀やバリケードや厳重な警備に囲まれず、通行証もなしに参加する教研集会が自由に開催できる社会を実現させましょう。

私たちは必ずや反転攻勢に出ることを決意します。

そして私たちの先輩が営々と築き上げてきた教育研究活動において、私たちの団結と連帯の力で尚いっそうの成果をあげるからこそ、次につながることを確信します。この事態をさらなる躍進のばねにすることを確かめ合い、それぞれの職場・地域から立ち上がり、全国・全世界へと拮げましょう。

そのためにも今日から三日間の分科会討論が実りあるものになるよう、力合わせをしていこうではありませんか。

2008 年 2 月 2 日

日本教職員組合中央執行委員長 森越康雄